



no.2

SYSTEM ENGINEER

システムエンジニア



PROFILE

野島 洋平さん (34歳)

のじま・ようへい

富士通株式会社
社会インフラビジネスグループ
第四システム事業本部
第一システム事業部
第三システム部

日本電子専門学校 情報処理科 卒業



「私が入社した当時は、情報をメールで配信するサービスなど存在しませんでした。それが、今や当たり前の機能。これからも最新技術を学びながら、常に最適な仕組みを設計・開発し、システムを進化させていきたいです」

お客様の望むシステムを
最新の技術をコーディネートして
要望以上のものに作り上げる

システムに関する知識・技術だけでなく、
情報をわかりやすく伝える能力も必要

私は現在、防災関連システムを扱う部署に所属し、河川情報システムの設計・開発に携わっています。河川情報システムとは、台風やゲリラ豪雨などにより河川の水位が一定基準を超えた際、住民や河川管理者、水防活動に従事する方々のPCやスマートフォンに情報を提供するシステムです。河川の多くは国や県、市町村などが管理しており、それらの自治体が私たちのお客さまに当たります。

一言でシステムエンジニアといっても、その立ち位置はさまざまです。基本的には、システムの開発に伴い、お客さまの要望仕様書にまとめる“お客さま寄り”と、その仕様を開発側に伝えるための設計書を作成する“開発者寄り”に分けられます。それであると、私は後者のシステムエンジニアです。

この仕事には、システムに関する知識や技術はもちろんのこと、情報をよりわかりやすく伝える能力も必要です。例えば、ただ「水位が一定基準を超えました」と伝えるだけでは十分な情報とはいえません。逃げればいいのか、待機すればいいのか、住民にとってわかりやすい指示が求められます。どのような形で、どのような指示をするのが適切か、自治体に提案するのも私たちの仕事です。その際、やはり経験から得られる知見がものをいいます。2年制の専門学校を卒業し、大学を卒業するより早く経験を積み始めることができたことは、少なからず自分のプラスになっていると感じています。

*グッドデザイン賞 / 「くらしや、社会を豊かにするデザイン」に対して与えられる賞。



基本的には、社内でパソコンを使って仕事を進める。しかし、繁忙期になると、担当している河川を管理する県や市町村に出張し、長期間滞りしながら業務を行う日々が増える

開発リーダーとして携わった
プロジェクトがグッドデザイン賞を受賞

入社してから、最初は先輩の指導のもと、システムの一部の開発などに携わり、5年目に入って、はじめてプロジェクトリーダーを任されるようになりました。防災システムは人の命を守る仕事です。担当の県庁に出張して1週間から10日かけてシステムの最終チェックを行うのも自分です。リーダーになって、その責任の重さを一層感じながら緊張感を持って仕事に臨んでいます。

プロジェクトメンバー全員で作上げたシステムを、「本当に導入してよかった」とお客さまから言ってもらえることが、この仕事における一番の喜びですね。2016年、私がリーダーを務める開発チームが携わった「石川県河川総合情報システム」のプロジェクトが、「グッドデザイン賞」*を受賞しました。よりわかりやすく情報を提供するため、ウェブデザイナーをメンバーに招いて開発するという新しい試みを提案して実現したものです。デザイナーと一緒に作り上げた情報デザイン、ひいてはシステム全体が社会から高く評価されました。お客さまから「使いやすい」と喜んでいただき、「あのシステムはどこが作ったのか?」と他県からの問い合わせもあつたほど評判になったこともうれしかったですね。

これからもAI技術をはじめとした新しい技術を取り入れて、システムを進化させていきたいと考えています。その実現のために、最新の技術情報を積極的に収集し、さまざまな情報にアンテナを張り、あらゆるチャンスを逃さぬよう心がけています。

システムエンジニア

野島さんの学びと仕事の経験



今の仕事を選んだ理由

高校の授業での体験が、自分の夢を、目標へと変えるきっかけになった

昔からものづくりとゲームが好きで、「自分でゲームを作りたい」と思ったのがIT系の仕事に進む最初のきっかけです。また、高校の情報リテラシーの授業で、簡単なプログラム作成を体験したことで、「ゲーム開発者になる」という夢が、より現実的になりました。

システムエンジニアという職に就くことを決めたのは就職活動のとき。先生から推薦していただいたのが、学校に募集がきていた大手企業のシステムエンジニアだったのです。先生から詳しく話を聞き、これまで学んだプログラミングの知識を生かしつつ、自分が思い描いていた仕事よりも、さらに大きな仕事に携われる可能性を感じ、システムエンジニアの道を決断しました。



HE CONTINUES CHASING A DREAM.



進路選びのポイント

本当にやりたいことを実現できる学校なのかよく考えることが大切

実は高校卒業後、ある有名大学の理系学部への進学を志望して浪人をしていました。その時にあらためて考えたのです。私が求めているのは、プログラムの実践を学ぶことです。であれば、直接的な学びのある専門学校の方が自分に合っているのではないかと思ったのです。

まず国家資格を取ることを目標に、そのためのカリキュラムがある学校を選びました。オープンキャンパスでたくさんの学校を見て回り、最終的に日本電子専門学校を選んだのは、最新の設備環境が整っていたから。技術は日々進化しています。ここなら最先端の技術力が身に付けられると考えて決めました。



専門学校が教えてくれたこと

資格取得のフォローアップが強み。就職活動の自信にもつながった

私が所属していた学科では、情報処理技術者試験という国家試験の受験を前提としたカリキュラムが組まれており、学ぶこと全てが新鮮でした。なかでも、1年次から「C言語」というプログラミング言語を学び、「OS」というコンピュータを動かすためのソフトウェアを自分の手で作成したときは、学びを形にする喜びを実感することができました。また、成績が良かったので、授業以外に実施される資格取得専門の講座も受講でき、情報処理技術者試験のうち基本情報技術者試験、ソフトウェア開発技術者試験(現:応用情報技術者試験)に合格。在学中にそれらに合格できたことは、就職活動の際に大きな強みとなりました。なお、文化祭や体育祭などをとおして、学科内外に多くの友人ができ、彼らとは今でも定期的に情報交換を行っています。

HE ACQUIRED A QUALIFICATION.



私の選択

22歳

2年次、基本情報技術者試験の1つ上のレベルに当たる、ソフトウェア開発技術者試験(現:応用情報技術者試験)に合格。日本電子専門学校卒業後、同校からの推薦で、富士通株式会社に入社。防災関連システムの部署で、河川情報システムの設計・開発に携わる。入社当初は、先輩と一緒にプロジェクトを担当させてもらい、部分的な仕事を覚えることからスタート。

20歳

2年連続で志望大学の受験に敗れ、2回目の浪人期間中に進路選択を考え直す。そのうえで、自分の本当にやりたいことが実現できる進学先として、専門学校を選択。結果、カリキュラムや学内設備に魅力を感じた日本電子専門学校に入学。

現在

主に石川県・愛知県の河川情報システムを担当。顧客の業務に対する理解を深め、それに対応する技術を磨く努力を重ねている。また、システムのさらなる向上を目指し、新技術について積極的に勉強中。

30歳

開発リーダーとして携わった「石川県河川総合情報システム」のプロジェクトが、公益財団法人日本デザイン振興会が主催する「グッドデザイン賞」を受賞。

26歳

入社5年目を迎え、一人で一つのプロジェクトを担当できるようになる。責任が大きくなった分、仕事のやりがいが増していった。

21歳

1年次、情報処理に関して必要な知識および技能を問う国家試験、情報処理技術者試験のうち、基本情報技術者試験に合格。



就職

入学

17歳

高校の情報リテラシーの授業で、コンピュータを使った簡単なプログラム作成を体験。それまで描いていた、「自分でゲームを作りたい」という夢が実現できる可能性を見いだす。

